

第22回 ことう地域チームケア研究会



くすのきセンター

1階 研修室

平成28年9月8日(木)

交流会

- 講演を聞いた感想・もっと知りたいこと
 - 自分の職種では何ができるか など
- ❁ グループ発表後は、自己紹介タイムです。

- 本人との信頼関係を築く
- 支援者が一人で抱え込まない。チームでの支援をしていくことが大切。
- 精神疾患を患っていると思っても、クリニック等への受診を家族だけで支援して行うこと難しい。
- 通院されたときに、本人の話をゆっくり聞く、共感することが一番の薬ではないかと感じた。
- (歯科医師)以前は精神科領域の勉強をする機会がなかった。今回は良い勉強ができた。

- 地域包括ケアの大切さについて先生にいろいろと質問することが出来た。
- (訪問看護)どのようにかかわればよいか迷うことがある。ケアマネジャーやヘルパーなどチームで関われるとよいが、行政なども加わってもらえるとよいと思う。
- 歯科にも精神疾患の方が治療に来られる。
- 「一人で考えず、皆で考える」

- 認知症の方については様々な体制が整ってきていて、地域で支えていこうという状況が見られるが、精神疾患の方の場合、まだそのようになっていない。
- 本人が受診にいけない人も多い。地域包括支援センターまなにも相談している。主治医から専門に紹介してもらおうという方法もあるのではないかとこのアドバイスがあった。
- 精神についての話は難しいと感じた。
- 身近に精神疾患の方がおり、地域に支援の体制があることを聞いて安心した。

- 精神疾患か老化から来る疾患か、わからないことがある。相談窓口が分からない、少ない。
- 病気に対する理解を深めていかないといけないと感じた。
- 支援者も生活を支えるために頑張っています
- 支援者も行き詰ったりつらくなったりする。孤立しないように医師や関係者と一緒に関われるといい。今回初めて精神科領域の話ができた。第一歩。

- 精神疾患と認知症の違いはどの様なところにあるのだろう。
- サポート=寄り添う、信頼関係を作る。この視点は、認知症の方と同じ。
- 受診できない人への対応はどのようにすればよいだろう。
- ひきこもりなどで受診できないこともあると思うが、生活の困っているところ見て、「生活を支える」という視点で関わると良いと思う。疾患名にとらわれず、生活が破たんしている部分へのサポートが重要。
- こころのチームケア研究会に参加していきたい。